

<森の中の新しい生き物> ビデオ・アニメーション

アニメーションとの出会いはこんな感じで始まりました。

もともと私は抽象画を描いていました。その頃も今も(最近は具体的なものが増えてきた)創作前にエスキースは創らず、直接画面の上でイメージを探し続けます。描き始める時、できるだけ無作為に偶然を装って(装おうところに苦労があるのだ、トホホ)インクをたらしたり、なぐり書きしたり、絵の具を飛ばしたり、ふきとったり・・・とそこに現われてくるカタチはさまざまに変化します。それらを注意深くじっくりと見つめてイメージを導き出していきます。その時の自分のイメージとぴったりのものに出会うまでその作業は続きます。そのうち絵の具のたれや筆のはねなどが、眼に見えたり、手足に見えたり、洋服の柄に見えたりと、だんだん生き物に近づいてきます。そんなこんなをしている時、それらの像が動いたらいいなあと思うようになりました。

私にとって絵画は永遠に変化し続ける像の凝縮した瞬間、ばっちりじっくりフォーカスを合わせてシャッターを切るかんで、アニメーションはイメージの輪郭がもう少し茫漠としていて煮詰まり切らない、熱し切らない、その前のレベルにいるあいまいなモノたち、まわりの空気と共にピンボケのまま撮影し続けるかんじです。

ドキドキ!で始まったワークショップ。

アニメーションの説明をするにはパラパラ漫画がうってつけ。みなさんはパラパラ漫画を作ったことありますか?私の小中高の教科書の隅々には必ずありましたよ。自分の手で描いたものが自分の手によって動き出す。なんて感動的!これはひとつの魔法ですね。スピードも変えられるしね。いつまでも永遠にやられるわ!と思っているのは私だけかしら?めくるめく。動く動く。アニメーションの喜びはやっぱり動くことですね。それが醍醐味。それを参加してくれた人達に体験してもらえたらいいなあと思います。

まずは手始めに1台のカメラで人物入れ替えアニメをする。大人チームはアフロヘアーにオレンジのヤッケ。子供チームはオレンジの三つ編みに黄色のヤッケ。ヤッケはちょっと暑かったね。ごめんなさい。アフロヘアーをかぶるのを最初はしぶっていた人もノリのいい人の『せっかくだからやりましょうよ』という一言ですんなりと。どうもありがとう。けっこう時間がかかったけれど、しがりを観てみるとわずか数秒。一瞬で自分の映像が過ぎていく。もっとゆっくり見せるとブーイングあり。子供パワー炸裂です。

さて次はみんなで協力してヒトコマを作りましょう。参加してくれた人達ははるかに私よりも頭脳明晰でことはうまくすすんでいった。カメラが7~8台並ぶ。熱気ムンムン。机の上には粘土の生き物たち。動かしてね。

ヒトコマつつ動かしてくれたら後で僕達は生き物になるんだよ。

最後はグループに分かれて好きな場所でクレイメーションの撮影。どのグループもアイデア満載ですごく刺激的でした。

何気なく描いた落書きや、道ばたにある石ころ、無骨な粘土人形、はたまた・・・動かしてみたいと思ったことはありませんか。

アニメーションは、まるで魔法みたい!

作業手順

レクチャー <アニメーションとはいったいどんなもの>

- 1 アニメーション作品上映
 - 2 パラパラ漫画を実際にパラパラしてみる。
- *アニメーションの基本的な原則は静止画をヒトコマ撮影したものをつなげたもの。

森に出て <アニメーションを撮ってみよう>

- 1 人物入れ換えアニメーション製作
ヒトコマつつ人物が入れ代わって一連の動きにしてみる。
- 2 参加者全員でヒトコマを演出してアニメーション製作
人物入れ換え。
机上の粘土人形をヒトコマつつ動かす。
机上に森でつんできた野草を増やししたりへらしたりする。
- 3 グループに分かれ、森の中の好きな場所を選んでクレイメーション製作